

苗場山麓 ジオパーク

Vol.
30

振興協議会だより

〔発行日〕平成30年4月25日
〔発行〕苗場山麓ジオパーク推進室
〔お問い合わせ〕025-765-1600

第3回 雪国ジオパークフォーラム2018in苗場山麓ジオパーク開催

3月22日、23日に第3回雪国ジオパークフォーラム2018in苗場山麓ジオパークがニュー・グリーンピア津南で開催されました。

参加者は60名で、北は北海道、西は兵庫県からと11のジオパーク関係者が集まりました。同日には、立教大学観光学部の学生や留学生25名のインバウンドモニターツアーも行いました。

基調講演では、日本ジオパーク委員会の佃栄吉先生から、10年目となった日本ジオパークの歴史や最近の再審査の状況、ジオパークは地域づくりであり、ガイドはその顔であるという、これからのジオパークの在り方についてご講演頂きました。そして、立教大学観光学部の舩谷鋭先生からは、「観光学からみたジオパーク」と題して、ツーリズムの中でのジオツーリズムの位置付けや、「ブラタモリ」的な視点、従来のストーリーの背景としてのジオではなく、ジオ理解のベースとなるストーリーを重要視し、物事を理解する方法としての比喻・文学などの援用が提案されました。

パネルディスカッションは、「ジオパークと観光アクティビティとの連携」をテーマにフジノケン氏をコーディネーターに迎え、NPO法人信州アウトドアプロジェクト代表の島崎晋亮氏、NPO法人白山しらみね自然学校ガイドの山口隆氏、株式会社日本アウトドアサービス代表の岩館広彬氏、立山黒部ジオパーク専門員の山岡勇太氏、苗場山麓ジオパーク専門員の仲野浩平の5人のパネラーで行いました。各パネラーの活動が紹介され、「お客様を主体とした内容」、「楽しんでもらう」、「ここでしか見られない、できないこと」をいかに提供できるか、そして、それはガイドの役割がとても重要であることが述べられました。今後、ガイド研修などで、観光アクティビティに携わる人の活動に参加するプログラムを実施することが重要と感じました。

講演会、パネルディスカッション終了後、参加者とインバウンドモニターツアーの学生さんには、「スカイランタン」を体験してもらいました。その後、苗場山麓ジオパークの恵みである「雪下にんじん」や「日本酒」などを楽しみながら交流が深められました。

翌朝には、「スカイランタン」の回収も行いました。

2日目は、ニュー・グリーンピア津南に新しく設置した展望台までのスノーシューツアーが苗場山麓ジオパークガイドによって行われました。参加者は48名で、5班に分かれての実施となりました。アンケート結果から大変好評で、ガイドさんの実力をいかに発揮していただきました。お昼には、平成28年度津南小学校5年生が考えた「ジオパーク弁当」を食べていただき、最後まで、苗場山麓ジオパークの恵みを堪能して頂きました。

今回の実施で、ガイドの皆さんに大変助けられました。反省点として準備段階や計画段階からガイドの皆さんと一緒に組み立てを議論していけばより良いものになったと考えさせられました。再審査に向け、ガイドの皆さんと作り上げていきたいと思います。



佃先生のご講演



パネルディスカッションの様子



ガイドの話に聞き入る参加者の皆さん



交流会の様子

「魚沼・苗場山麓の自然と文化」in東京国立博物館

3月3日、東京都上野公園に近接する東京国立博物館講堂を借用し、苗場山麓ジオパークの自然と文化の魅力と奥深さを都会の皆様にお伝えして、来訪頂きたい思いを込めての講演会を開催しました。

第1部で、スライドを使用して苗場山麓の四季折々の風景と厳しい気候を背景に展開した縄文文化について概要をご報告しました。

第2部では、チェリストの斉藤孝太郎さんから「縄文の風」の演奏を頂きました。この音楽は、火焰土器などの本物の縄文土器の文様を楽譜に転換して、奏でるという独創的な音楽作成で注目されています。その音色を会場の皆様と感動しながら聞き惚れました。

第3部は、考古学者の小林達雄と哲学者の中沢新一、知の巨人が対峙し、苗場山麓の深い自然環境を背景に育まれた縄文文化に触れながら、土器文様や構成、土偶形態と壊す行為を引き出しながら、縄文人の心に接近する試みが展開されました。



中沢新一先生(左)と小林達雄先生(右)

つなん雪まつり 苗場山麓ジオパーク応援団

例年、全国各地からつなん雪まつりに1万人以上のお客様が来町します。せっかくお越しになるお客様に「苗場山麓ジオパーク」を少しでも知ってもらおうと「苗場山麓ジオパーク応援団」なる組織をつくり、本格的に活動をはじめて2年目となりました。



3月10日、昨年度の場所に代わり、津南食品さんの地所をお借りしてPR活動を実施しました。

当日は、なめこ汁をふるまい、公認ガイドによる解説をきいてもらいました。延べ約700名の来客があり、半数の約350人に詳しく写真等の解説の場を持つことができました。ガイドの会から10名余の協力で実施しました。お客様からは、「説明が聞けてよかった。」「また、秋に来てみたい。」などの感想が寄せられました。聞き入る方々のようすをみるにつけ、ガイドの存在の大切さがわかります。

第4回 認定検定を実施しました

3月24日、第4回苗場山麓ジオパーク認定ガイド検定を実施しました。町内外から7人の応募がありました。7人受検で、5人の方々が見事合格されました。今年度は、第1回～3回までの過去問題から約1/2出題しました。応募者が、年々減少していますが、真に興味があり、関心をお持ちの方のみ受検するようになったとの見方もあるかもしれません。地形や地質、大地に生きる動植物、遺跡だけでなく、人類の歴史文化全てがジオパークの範疇に入ります。例年、3月最終週の土曜日に検定の期日を設定していますが、応募しやすくするため、1週間早めの実施も考えています。



津南小(平成28年度)4年生が温泉PR動画で優秀賞を受賞しました

平成28年度の津南小学校4年生(現6年生)が制作した温泉PRムービー「伝えたい!つなんの温泉 ～津南町・秋山郷の温泉PRムービー～」がこの度、新潟県の自作映像・視聴覚教材コンクールの児童生徒部門で優秀賞に選ばれ、3月15日に新潟県立生涯学習推進センターにて表彰式が執り行われました。

このコンクールは平成28年度「おらのつなんまち」が最優秀賞をもらったコンクールで、二年連続の受賞となりました。



津南小4年&栄小4年による 苗場山麓ジオクイズ検定＆「Takaramono 栄村Ver.」初披露ミニコンサート

春休みも間近に迫った3月2日、津南小学校体育館で、津南小と栄小初めての合同企画が開催されました。

この一年のジオパークを使った学習の活動紹介や、その集大成である「苗場山麓ジオクイズ検定」、平成27年に作ったジオパークP Rソング「Takaramono」の栄村Ver.の披露です。開会から閉会まで進行を小学生が主体となり行うなど、自分たちで考えて行動ができていた様子が伺えました。

ジオクイズも自分たちで問題を作っています。クイズは全部で22問。15問以上正解で合格です。11のブースに分かれており、ジオパーク全般のクイズが2ブース、津南と栄村のジオサイトに関するクイズが8ブース、栄小の学生のブースが1ブースで参加者はそれをぐるぐると巡りながらクイズに答えていきました。クイズはいずれも難問揃い！あまりの難しさに保護者を含めた参加者からは「細かいことまでできてきてすごい！」「初めて知った。」という言葉も聞かれ、合格基準が何点か下がったほどです(笑)。子供たちの方が地域のことを深く知っているという証拠ですね。合格者には合格証と、検定オリジナルマスコットキャラクター「ジオ犬」の缶バッジが渡されました。

これからも、越境のジオパークとして、子供たちのより良い成長のために、学校や地域の境を越えた交流や活動が行われるように事業を進めていきたいと思っています。

Takaramono -苗場山麓ジオパークPRソング 2017 栄村バージョン-

作詞：H26 津南小チャレンジ学年ジオPRソングプロジェクト + H29 栄小4年生
作曲：近藤 和幸（津南小学校教諭）

★たった一つのタカラモノ 僕らが栄の未来を創る・・・

初めて知ったジオパーク 心のちいともドキドキ
何だろう？って思うことが ワクワク感を増してく

この地にしかない自然を たくさんの奇跡を
多くの人に伝えたいんだ 思うようにいかなくても
それでも伝えたい！
栄に生きてく一人として

★たった一つのタカラモノ 栄はただのいなかじゃないのさ
あふれる自然の中 生まれた奇跡の大地 苗場山麓ジオパーク！
僕らが栄の未来を創る！

秋山見下ろす苗場山 平らな頂上 白く輝く
大昔にマグマ流れる 火砕流跡 見上げて

真っ赤なもみじが流れる 麓魚川の大池（おおせん）
お湯がわく川原 切明
そびえる切明橋から 夫婦滝（めおとだき）
2つの流れが一つになる・・・

★たった一つのタカラモノ 栄はただのいなかじゃないのさ
あふれる自然の中 生まれた奇跡の大地 苗場山麓ジオパーク！
僕らが栄の未来をつくる！

野々海（ののみ）の池の水芭蕉たちに うかぶ昭和の空
そこに生きて人のストーリー 今も栄をつくる・・・

★たった一つのタカラモノ 栄はただのいなかじゃないのさ
あふれる自然の中 生まれた奇跡の大地 苗場山麓ジオパーク！
僕らが栄の未来をつくる・・・僕らが栄の未来を創る！

ハルル・・・

ぜひ、私たちと一緒に栄村の Takaramono を歌いませんか？



ジオクイズ検定
公式マスコット
ジオ犬

東日本大震災7周年シンポジウムに参加して

3月11日、東北大学災害科学国際研究所において東日本大震災を振り返り、暮らしに密着した防災を考える機会が設けられました。苗場山麓ジオパークは、中越地震、中越沖地震、そして3・12長野県北部地震に見舞われ、大地が大きく揺れたことを思い出します。地球史としての時間軸で触れるならば、三条地震・善光寺地震・新潟地震などを含めた信濃川流路沿いを震源とする地震が短時間に集中的に発生したとも言えます。

人の記憶は薄らぎ、消え去るものです。しかし、東日本大震災域で人的被害が無かった地区は、すべて、過去の地震顕彰碑で慰霊祭を持続しながら、有事の際の対応を話し合ってきた所が100%であり、核家族の新興住宅街では記憶が途切れており、災害時に何をするのか？どれくらいの時間でどこに逃げるのかということが分からずに、多くの人的被害が生じたようです。また、社会的弱者の方々には平時でも声を出す事がはばかられ、有事におけるプライベート問題など、ようやく現在議論が始まったようです。



災害時では、平時の弱者対策のほころびが一瞬にして拡大することで不安を増長させることが指摘されました。今後の防災対応の基盤には、「日々の暮らし」をキーワードに弱者から見た災害をテーマに検討と学習を続ける必要があります。さらに苗場山麓の特性を活かすならば、2月厳冬の直下型地震の発生を前提にした仮想対策会議の実施が必要です。



ジオパークを使った防災学習とリスクマネジメント 新潟圏域ジオパーク意見交換会in佐渡

3月15日、16日に新潟圏域ジオパーク意見交換会が佐渡ジオパークを舞台に開かれました。テーマは「防災学習」と「リスクマネジメント」です。

ジオパークという活動の根底には「自然環境の保全」があります。保全ということはそれそのものを「守る」こともそうですが、守るために他の人になぜ守るのかを「伝え」なければなりません。「守って」「伝える」という事はまず自分が「知」らなければならず、ジオ、つまり地質や地形で「知る」という事はこれからそこで何が起きるか、つまり「災害を予測する」という事につながる。という事です。

ただ、講演を行った新潟大学のト部先生によると、一生に一度来るかわからない災害に対して、参加者に「いつも災害はそばにある」という事をどのように感じてもらうかが、防災学習で一番難しいことだそうです。ツアーなどの参加者の身近な地域で起こりうる災害に「思いがにつながる」ようなガイドを私たちは行わなければなりません。

「リスクマネジメント」では佐渡のガイドさんたちが主体となり、自分たちの実体験も踏まえながら、現場での説明やワークショップを行いました。佐渡では昨年ガイド中に、風化した海岸の奇岩が落下してくるという事故があったそうです。幸い周りにはだれもおらずけが等はありませんでしたが、その際の対応には反省点が多くあったそうで、災害はいつでもどこでも起こるものと改めて感じさせられました。

これから、ジオパークのガイドにはより広い知識、日本全体のある程度の地形や地質情報とそれを苗場山麓とつなげられるような柔軟な思考や、お客様の安全を第1に考えて動くような有事の際の対応訓練を何度も行うことが求められるのでは、と感じた会となりました。



第4回 苗場山麓ジオパーク学術指導委員会

3月28日、苗場山麓ジオパーク学術指導委員会が開催されました。委員会では、平成29年度事業と平成29年度学術奨励事業研究助成金報告、平成30年度事業計画が報告されました。学術調査については、野々海池などでのボーリング調査の提案が出ました。平成30年度は複数回現地での踏査を行い、調査地点について検討が行われる予定です。



そして、平成30年度学術奨励事業研究助成金の審査が行われました。応募は5件あり、審査の結果、5件が採択されました。30年度から、報告は10ページ以内のレポートとなり、30年度から刊行が始まる『(仮称) 苗場山麓ジオパーク研究紀要』に掲載されることも決定しました。このほか、ジオサイトの見直しについても指導を受け、再審査に向けたジオサイトの整理がこれから進んでいくことになります。



第3回 フォトコンテスト結果発表



2月21日、栄村役場にて第3回苗場山麓ジオパークフォトコンテストの審査会が行われました。作品の審査結果・総評は苗場山麓ジオパークのホームページに掲載しておりますのでご覧ください。ここでは最優秀賞のみご紹介させていただきます。

最優秀賞

「紅葉の大滝」

撮影者：下 育郎

審査員から… 写真全体のバランスも手前においた紅葉で見事な遠近感が出ており、秋の大滝が非常によく表現されている。水量もちょうどよく、シャッタースピードも水の変化がはっきりと現れベスト。紅葉、滝壺の色も非常に美しくまさに決定的瞬間。ポスターなど大きくすればするほど引き立ってくる見事な作品。

ご応募いただいた作品は、どれも素敵なものばかりでした！
たくさんのご応募ありがとうございました。